

# 国際学院新聞

## コロナ禍の中 教育の質保証を目指す

### 文科相から「特別奨励状」を受贈

令和2年1月6日に、中国の武漢で原因不明の肺炎として始まったといわれる新型コロナウイルス感染症は、1月30日にWHOが国際的な緊急事態を宣言し、世界的な感染症として認知された。その後、感染の勢いに強弱をいくつかつづき、感染者数を増やし続け、11月末日現在で6千万人を超え、拡大を続けている。

こうした状況の中、文科科学大臣から高等学校に、各種大会等が中止になる中で前向きに学びを深めている生徒を激励する「特別奨励状」が贈られた。本学院各校は、学生生徒の安全・安心、教育の質保証のため、万全を期し取り組んでいる。

**短期大学の取組み**

令和2年度の入学式を中止し、オリエンテーションについても必要最小限の内容として、分散して実施した。授業については、開始を1週間遅らせ4月13日から遠隔授業方式での実施とし、授業担当教員は、授業相当の工夫された課題を学生ポータルサイトを活用して出し、提出された課題に対しては、一人一人丁寧に添削指導しフィードバックした。さらに、本年度から実施された新修学支援制度を活用しコロナ禍にある学生支援の充実を図った。

また、並行して情報通信環境の整備を進め、オンライン授業と対面授業を併用して実施した。

10月22日からは、一授業あたりの学生数の上限を30人から40人にすることで、全ての授業が対面で実施できるようにした。

また、並行して情報通信環境の整備を進め、オンライン授業と対面授業を併用して実施した。

5月には各担任が全ての生徒とオンライン授業に加え、面談を実施した。教員生徒ともに試行錯誤しながら、積極的に取り組んだ。

6月に入ると分散登校が開始された。現在は対面授業とオンラインを活用した

行事等については、体育大会、海外研修旅行、五峯祭等の学生の密接、密集が避けられない内容のものについては、中止とし、今後その行事等により学生が得ることのできる学修成果の代替えの取組みを検討・実施することとしている。

**中学・高校の取組み**

「学びを止めない」を合言葉に学校生活の充実に向けて取り組んでいる。

4月当初は学校で導入しているスタディアプリを活用し、学習支援、日々の健康観察や情報の共有を行った。その後はマイクログループのチームでの環境を整備し、オンラインでの双方向授業を段階的に実施した。

5月には各担任が全ての生徒とオンライン授業に加え、面談を実施した。教員生徒ともに試行錯誤しながら、積極的に取り組んだ。

6月に入ると分散登校が開始された。現在は対面授業とオンラインを活用した

教育活動を行っている。学校行事については、五峯祭をオンラインで実施。体育祭は授業の中で、クラス対抗で競う通称「KGチャレンジ」を行うなど工夫した取組みを行った。

日々の生活ではこまめな手洗い、うがいはもちろん、教員と生徒が協力して清掃、除菌作業を行い、感染症対策に努めている。今後、も生徒と教員が協力して学びを止めない工夫をし、お互いが成長できる取組みを実践していく。

### 11月にCOEを国連に提出

#### GCSDGs推進の取組み

令和2年度の本院のグローバルコンパクト(GC)並びにSDGs推進の取組は、短期大学においては、主に「卒業研究ゼミ」並びに「卒業研究プレゼミ」をはじめとした正課の授業で展開され、これに新たに「埼玉学」や「地球と環境」等の教養科目が加わり実施している。特に「卒業研究ゼミ」においては、研究活動に必要な教材の費用を補助する制度もスタートし、より活発な活動が実施できる環境が整備された。

さらに、「消費者経済」

第63号  
(編集発行)  
学校法人 国際学院  
〒330-8548  
さいたま市大宮区吉敷町2-5  
TEL 048 (641) 7468  
FAX 048 (641) 7432  
インターネットホームページアドレス  
<http://www.kgef.ac.jp/>

**主なニュース**

KGブランド確立、論説、埼玉学開講 …… 2面  
幼児絵画展開催、各種実習報告 …… 3面  
マレーシア交流会、DRR研修 …… 4面  
異文化学習会、TGG語学研修 …… 5面  
五峯祭(短大)、球技大会、野外活動 …… 6面  
おもちゃインストラクター、校友会・生徒会報告 …… 7面  
卒業生近況報告、ベストブック …… 8面

やSDGs推進活動を実施しているが、11月25日にコミュニケーション・オン・エンゲジメント(COE)として、本院各校の2年間の取組みを国連に報告した。

本院の今後さらなる活動の推進が内外から注目されている。

**照 敦**

ジャレド・ダミアンド氏は名著「銃・病原菌・鉄」で、なぜユーラシアの文明がより発達し、他の文明を征服できたかについては、固有の遺伝的優位性にあるのではなく、病原菌や地理的要因など偶然の環境の差異によるものだと述べている。

▼人類は、数多くの感染症等の猛威を経て、現在の文明に到達している。我々は、大自然の前では揺れる小船のようなもので、現在の文明は、偶然の自然現象の結果に過ぎないのではないか。▼「驕る平家」への天罰のような言説には与しないが、コロナ禍にあって、人類はもう少し自然に對し謙虚であるべきだと思っている。▼自然災害が日本人の国民性を作ったという説がある。日本人は悲観的で、行動が慎重であると言われるが、それは世界に類を見ない天災の多発地域であり、何となくそれらを乗り越え発展を遂げてきた歴史の中で培われたものである。▼マスク着用などでは慎重に行動し、西欧諸国のような大規模な感染拡大を防いでいるのは、そうした日本人の特質もあると思うがどうだろうか。▼盛んにコロナ後の世界が議論されている。グローバル化都市への集積といったこれまで肯定されてきた事柄の見直しが進むのではないかと。接触を伴わない行動様式がニューノーマルになるのだろうか。▼明るく豊かな未来を次世代に継承するために、できることは何か。SDGs実現に向けた本学の取組みの中で考えたい。

### 学院創立57周年記念公演

コカリナの第一人者、黒坂黒太郎氏による演奏

令和2年、国際学院は創立57周年を迎える。今回の記念行事は、例年のように大宮ソニックシティ大ホールに学生・生徒や教職員等が参集して実施することはコロナ禍によりできないが、コカリナの第一人者である黒坂黒太郎氏に依頼し、演奏活動をオンラインで実施することになった。

黒坂氏は、当初、フォーのシンガーソングライターとして、地球環境や生活の施策や企業の現状等について説明頂くとともに、受講生との意見交換を行う機会を12月に設けることとしていた。

また、中学校高等学校に於いては、これまで対面で行ってきた国際交流をオンラインに切り替えて、新型コロナウイルス対応等の情報交換を行い、さらにオンライン五峯祭として「SDGsクラス動画」の配信を実施した。

### 射撃部・陸上競技部活動報告

**射撃部**

8月に全国大会が、橋本聖子五輪大臣等が観戦する中、リモート開催された。エアピストルで小西伶奈が優勝、松田健太郎が5位、チームピストルで小西が準優勝、エアライフルで柳澤アユースエアガン大会には松田と小西が日本代表として出場予定となる等、活躍の実績を伸ばしている。

**陸上競技部の活動**

陸上競技部は、これまで10年連続で高校総体に出場しているが、特に3年生部員は目標であった活躍の舞台を失った状況となった。

こうした中、9月に埼玉県新人大会が開催され、村越京が走幅跳で優勝し、関東選抜大会出場を果たした。

さらに、10月には、埼玉県選手権が開催され、実業団や大学生が出場する中、4×100m・4×400mリレーに3年の長島千裕、三國沙希、山本陽海、青田帆華が出場し、4人入賞。7種競技では、山下愛実が8位に入賞した。これまで3年生の活躍は、陸上競技部にとって大きな収穫となった。

### コロナ禍でも大活躍の選手たち

コロナ禍の中、高校総体をはじめとした各種競技の大会が中止や開催形態を変えて実施されている。

射撃部の活動

8月に全国大会が、橋本聖子五輪大臣等が観戦する中、リモート開催された。エアピストルで小西伶奈が優勝、松田健太郎が5位、チームピストルで小西が準優勝、エアライフルで柳澤アユースエアガン大会には松田と小西が日本代表として出場予定となる等、活躍の実績を伸ばしている。

陸上競技部の活動

陸上競技部は、これまで10年連続で高校総体に出場しているが、特に3年生部員は目標であった活躍の舞台を失った状況となった。

こうした中、9月に埼玉県新人大会が開催され、村越京が走幅跳で優勝し、関東選抜大会出場を果たした。

さらに、10月には、埼玉県選手権が開催され、実業団や大学生が出場する中、4×100m・4×400mリレーに3年の長島千裕、三國沙希、山本陽海、青田帆華が出場し、4人入賞。7種競技では、山下愛実が8位に入賞した。これまで3年生の活躍は、陸上競技部にとって大きな収穫となった。

### 大野博之理事長・学長が

#### 文部科学大臣表彰を受賞



大野理事長・学長は、これまで、平成23年11月に調理師養成功労者として厚生労働大臣表彰を、平成29年7月には、高等学校定時制通信制教育大臣表彰を受賞している。さらに、平成30年には藍綬褒章を授章している。

現在、大野理事長・学長は、日本私立短期大学協会副会長や関東私立短期大学協会会長、埼玉県私立短期大学協会会長、全国栄養士養成施設協会副会長等の要職を務めるほか、文部科学省の各種委員に就任するなど、短期大学教育の振興はもとより、我が国教育の振興に尽力している。

昭和25年に創設された短期大学制度は、今年で70年を迎える。この節目の年にあたり、大野博之理事長・学長が、短期大学教育功労者表彰を受賞した。

この表彰は、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者及び短期大学教育に特に功績があった者を文部科学大臣が表彰するもので、その功に報いるとともに、短期大学教育のさらなる発展に資することを目的に実施されている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

昭和25年に創設された短期大学制度は、今年で70年を迎える。この節目の年にあたり、大野博之理事長・学長が、短期大学教育功労者表彰を受賞した。

この表彰は、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者及び短期大学教育に特に功績があった者を文部科学大臣が表彰するもので、その功に報いるとともに、短期大学教育のさらなる発展に資することを目的に実施されている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

今回の大野理事長・学長の表彰は、国際学院の教職員はもとより、学生生徒にとっても朗報であり、誉となつている。

# KGブランドの確立 人々の教育の更なる推進

## 第IV期中期計画の着実な実行へ

新型のコロナウイルス感染症の終息が見えず、教育を取り巻く環境にも大きな変化と制約が課せられてきている。こうした中においても、本学には、第IV期中期計画が目指す「KGブランドの確立」に向け、これからの時代において求められるであろう持続可能な社会の実現や地域社会に貢献する人づくりが求められている。

### 重点事項の設定と 新型コロナ対策

「令和2年度事業計画」においては、メリハリの利いた中期計画の推進を目的に、重点事項を設定した。

まず、全学院的視点から、「新型コロナウイルス感染症対策の推進」、「SDGsの推進」など5項目を、また、短期大学では、「教学マネジメント」に向けた取り組み、「高大連携の推進」、「入試改革

### 論説



我が国は、第5期科学技術基本計画でソサエティ5・0の実現を目指している。経済発展と少子高齢化・地域格差・貧富の差などの社会的課題の解決を両立する人間中心の新たな社会を実現するため、IoT（モノのインターネット）・AI・ICTやロボットなどの技術を活用する社会である。また、国際社会共通の目標として持続可能でよりよい世界を目指すSDGsがあり、我が国も積極的に取り組んでいる。国際学院も、2018年12月国連グローバル・コ

の推進」など5項目、中学校や遠隔授業実施のためのZ高等学校では、「GIGAスクール構想への対応」と「グローバルネットワークの推進」の2項目について集中的に取り組むこととした。

このうち、新型コロナウイルス感染症対策については、校内の消毒や清掃の対応や感染者が発生した場合の対応のマニュアル化、学校レベルの活動指針の策定、国や県の方針に基づく授業の実施

の推進」など5項目、中学校や遠隔授業実施のためのZ高等学校では、「GIGAスクール構想への対応」と「グローバルネットワークの推進」の2項目について集中的に取り組むこととした。今後、息の長い取り組みとして、継続的に取り組んで行く。

同時に、本学院は、今後も、学校法人としての社会的責任を担い、グローバル・コンパクト10原則とSDGs推進に尽力することを

するために、組織的な取り組みであり、大学の内部質保証の確立にも密接にかかわる重要な取り組みである。その確立にあたっては、学修者である学生の目線に立った転換が特に重要である。

このため、教学マネジメントに向けた本年度の重点事項として、①3つの方針を通じた学修目標の具体化②授業科目・教育課程の編成・実施③学修成果・教育成果の把握・可視化④情報公表を設定し取り組んでいる。

なかでも、コロナ禍の中で円滑な学修が展開されるために、「遠隔授業体制整備事業」を実施し、学生のための学修環境を確保したところである。

報告書では、短期大学においては、SDGsの取組みを専門研究と関連づけ、2年間を通して学生がSDGsを理解し、自ら積極的に実践し、その学修成果を発表する「卒業研究ゼミ」「卒業研究プレゼミ」をカリキュラムに位置付けたことなどを、また、中学校高等学校においては、五峯祭、マレーシアとの国際交流、ポッチャ体験など多くの取組みを通じ、GCC10原則とSDGsの実現を目指した活動や教職員の研修、広報活動などについて触れている。

誓い、宣言した。大宮キャンパス再開計画本再開発では、「ナレッジ・ビレッジ(さいたま国際知識村)構想」の下、大宮キャンパスの再開に取組んでいる。

現在、様々な調整を進めているところであるが、構想の実現には、建築基準法

や都市計画法など諸法令の課題解決が避けて通れない。コロナ後の社会を想定し、従来にならぬ新たな発想と手段で開発を進めていくべく、関係機関(者)との継続的な協議を進めている。今後、KGブランドの象徴として国内外に発信していくことを念頭に、計画の具体化を推進していくものである。

## 「埼玉学」が開講 専門家が埼玉の未来を考える

埼玉学は、埼玉県の歴史や風土と、その中で育まれた人や食文化等に焦点を当て、郷土埼玉を理解すること、本学で学ぶことの価値を共有し、また、専門職の立場から埼玉の未来を考えたという科目。大野満奈教授の指導の下、その分野を代表する方々をゲストスピーカーとしてお願いした。

第1回は、今や一大小麦産地である県北地域の農地開拓の歴史を松本米穀精麦

株式会社砂登豊昌氏に語っていただいた。第2回は、第4回は、ぶぎん地域経済研究所の松本博之・上席研究員が、埼玉の成り立ちや文化、風土等と、近代日本の礎を築いた渋沢栄一の生涯をたどり、渋沢栄一

の道徳経済教育振興など、彼の功績と彼を育んだ埼玉県の風土を熱く語ってくれた。また、国立女性教育会館の高原幸子主任研究員は、もう一人の本県を代表する偉人である荻野吟子の生涯を、女性の社会進出という視点から辿っていただいた。そして、関東農政局の鶴岡佳則消費・安全管理官には、埼玉県の食文化とともに、今日的な課題である食品ロスの課題を取り上げていただいた。食料自給率が38%という日本にあって、年間に廃棄される食品廃棄物1700万tのうち64.3万tは食品ロスであることを知り、SDGsを考えた卒業研究に取り組む学生にとっても非常に示唆に富んだ講義となった。

今回、埼玉学の講義を通じて、受講した学生は、それぞれが感じ学び取った埼玉県の姿をもとに、未来に向かって、これから専門職として地域で学び、価値を創造し、社会に貢献していくことになる。本年度からスタートした埼玉学は多くの学生の受講を待っている。

## コロナ終息後の世界に向けて

変化してきた。教育においては、文部科学省は感染症が収束していかない「Withコロナ」段階では教師による対面指導とオンラインとの組み合わせによる新しい教育様式を実践する一方、感染症が収束した「ポストコ

ロナ」段階では、対面指導と融合したハイブリッド型の授業を可能とする方向性を打ち出している。国際学院においても、短期大学では4月からのポータルサイトを活用した課題学習、6月からの対面授業とポータルサイトを併用した課題学習、

の対話による相互作用の中から生まれることが明らかにされており、相手の視線や表情の変化も含めた対面型コミュニケーションの中では、「感情交流」「偶発的出会い」もみられる。対話をする中から思ってもいなかった情報も得られたりする。そういった偶発性がアイ

の表現に向け、私たちに多くの解決すべき問題を投げかけている。その一つに、すべてのコミュニケーションをオンライン型に移行すると、中長期的なパフォーマンス低下につながってしまうという問題がある。知識の獲得や理解の多くは、他者との対話による相互作用の中から生まれることが明らかにされており、相手の視線や表情の変化も含めた対面型コミュニケーションの中では、「感情交流」「偶発的出会い」もみられる。対話をする中から思ってもいなかった情報も得られたりする。そういった偶発性がアイ

の道徳経済教育振興など、彼の功績と彼を育んだ埼玉県の風土を熱く語ってくれた。また、国立女性教育会館の高原幸子主任研究員は、もう一人の本県を代表する偉人である荻野吟子の生涯を、女性の社会進出という視点から辿っていただいた。そして、関東農政局の鶴岡佳則消費・安全管理官には、埼玉県の食文化とともに、今日的な課題である食品ロスの課題を取り上げていただいた。食料自給率が38%という日本にあって、年間に廃棄される食品廃棄物1700万tのうち64.3万tは食品ロスであることを知り、SDGsを考えた卒業研究に取り組む学生にとっても非常に示唆に富んだ講義となった。

今回、埼玉学の講義を通じて、受講した学生は、それぞれが感じ学び取った埼玉県の姿をもとに、未来に向かって、これから専門職として地域で学び、価値を創造し、社会に貢献していくことになる。本年度からスタートした埼玉学は多くの学生の受講を待っている。

その後、「介護育士3級養成講座」及び「食育教室2020」(Web開催)の開講を予定している。

## 公開講座「認定食育士」や「災害食」 講座等の4講座を開講

令和2年度の国際学院埼玉短期大学公開講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当初予定した10講座を4講座に絞り、開催することとした。

その一つに、平成26年から3年間文部科学省の委託事業として食育推進の専門人材を養成するためのカリキュラム開発を行い、平成

30年から公開講座として開講している「認定食育士養成講座」がある。

今年度は、9月10日の「食の文化」、「食育教材作成」からスタートし、上尾市内の牧場の協力を得て実施する乳牛の搾乳や給餌等酪農体験やさいたま市緑区の農場で里芋の収穫を行う農業体験等を経て、来年2月にこれまでの学修の評

### 財務情報

#### 決算総額約35億円

令和元年度の決算概況をお知らせします。

資金収支計算書では決算総額は前年度と比較して、1億55百万円減額の約35億円となりました。収入の部では、学生生徒等納付金収入は8億55百万円でした。支出の部では、伊奈キャンパス本館エレベーターリニューアル工事等教育施設整備を行いました。また、事業活動収支計算書では、教員活動収支は93百万円の黒



給餌体験をする学生

字、教育活動外収支は11百万円の赤字となり、経常収支差額は82百万円の赤字となりました。

貸借対照表では、「資産の部合計」は、121億90百万円で、前年度末と比較して2億26百万円減少しました。「基本金」は、1号基本金が3億58百万円、2号基本金が20百万円増加しました。以上の結果、「純資産」は、94億46百万円となり、前年度末と比較して1億円増加しました。詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

国際学院埼玉短期大学  
副学長 清水 誠

# 教育実習を終えて 「二人の保育者」の心構えで

幼児保育学科 2年A組  
山崎 涼花



私は、9月1日から23日までの3週間、野田市の幼稚園で実習をさせて頂きました。

## 保育実習を終えて 子どもと一緒に楽しむ

幼児保育学科 2年B組  
木村 好乃



私はさいたま市の私立保

た、コロナウイルス感染症予防のためマスクの着用をしていたので保育者の子どもに伝わるような言葉掛けや表情にも注目しました。責任実習では、子どもが興味を持てるような言葉掛けや意欲的に活動することが出来る援助の大切さに気が付きました。そして指導案を作成するにあたり、立案

は保育をするために最も必要なものだと感じました。今回の実習を通して、幼稚園教諭として働きたいという思いが強くなりました。子どもたちの深い信頼関係を築くことが出来るように、常に笑顔で子どもの気持ちに寄り添える保育者を目指して日々努力したいと思います。

実習の目標を掲げてみたい、実習を通して学びたいことを明確にし、最終的に何を学んだのかを振り返るというように常に何かを学ぶことのできることも濃い10日間となりました。実習を通してその年齢からではなくその子どもだから、このクラスだからというようにその子ども達に合った保育をしているということも学ぶことができました。私自身も責任実習で3歳児クラスに入り年齢に合わせた考えていきました。

考えることも多く、課題もたくさん残りました。先生方から「保育者が楽しく保育をすることで子どもたちも楽しくなる」という言葉をいただきました。私はその言葉を胸に、そして実習での経験を活かして子どもと一緒に楽しみながら、気持ちに寄り添える保育者を目指しこれからも励みたいと思います。

など生活全般に介護の必要がない自立を目指しながら過不足ない支援を行う生活介護と就労の機会の提供や軽作業などの活動を通して、知識と能力の向上のために必要な支援を行なう就業継続があります。利用者の自立と自己実現に向けて、一人ひとりの能力を十分に発揮できるように支援を行なっている場です。

利用者の方と楽しく話せるようになり、生活介護の利用者の方はコミュニケーションをとるのが難しい方がいました。施設職員の方からコミュニケーションをとる時には、利用者の方の目を見てその質問に興味を持っていて、一人ひとりの能力を十分に発揮できるように支援を行なっている場です。

私は、障害者福祉サービス事業所での実習を通して、一人一人の障害についての特性について勉強し方や援助の仕方を工夫していきたいと思いました。保育者として、子どもたちや利用者の方が、保育者を信頼し安心して接することができるように、相談に乗ったり話しやすい環境を作ったりして、コミュニケーションを通じて様子や些細な変化に気づけるようにしたいと思っています。



## 児童養護施設実習を終えて 利用者の気持ちに寄り添う

幼児保育学科 2年C組  
曾田 美咲

私は、久喜市の障害者福祉サービス事業所で施設実習を行いました。障害者福祉サービスでは、日常生活に必要な食事・排泄・余暇

しかし、男性の利用者の方が、「緊張しなくていいんだよ。リラックスして実習した方がいいよ」と優しく話しかけてくださいました。その一言によって多く

私たちが日常に使っているものや綺麗に公共の場が行っていました。前日に授業の流れの確認を行ったことで、改善すべき点に気づくことができた万全な準備を整えて研究授業に臨むことができました。

授業後は、児童達から食品に関する話題が沢山上がり、給食時間にも直接質問をしてくださいました。児童たちが食への関心を高めたと実感し、授業の目標以上の成果を得ることができました。授業を行った意味があったことは、嬉しく、やりがいを感じることができました。



私はさいたま市の私立保

## 校外実習を通して学んだこと 確認作業の大切さ学ぶ

健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組  
櫻井優里香



私は8月31日から10日間、社会福祉法人 誠心会 あおぞらウィンクルム保育園で実習させていただきました。

調理現場では乳児食・幼児食の作成やおやつ作成に携わらせて頂くことができ、提供時間までに仕上げ

ただ、子ども達が自分の思っていた以上に熱心に話を聞いてくれる姿や反応してくれている姿を見ることで、食育指導の楽しさ・やりがいを経験し、この指導を通じてもっと色々なことを伝えたいという想いを強く感じました。

徹底された衛生管理のもと、安全でおいしい料理を作るための専門知識や技術、高齢者の命を預かる責任の重さを感じました。

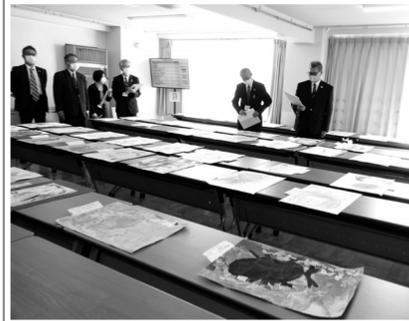
私は、今年9月14日から18日までの5日間、母校である小学校で教育実習をさせて頂きました。

この実習では、多くの時間を3年1組で過ごし、児童、教員それぞれの視点からのコミュニケーションの

限られた実習期間の中、指導案の練り直しや、授業で伝えたいことをより分かりやすく示した媒体の作成など、上手いかないこともありませんでしたが、元気で素直な児童の明るい笑顔や、親身になって指導してくださる小学校の先生方に支えられ、有意義な実習になりました。

# 第35回 幼児絵画展を開催

## Webサイトで優秀作品紹介



応募作品の審査風景

優秀作品紹介サイト  
<https://sc.kegei.ac.jp/blog/7440/>

今年で35回目となる幼児絵画展は、埼玉芸術文化祭2020の協賛事業として県内の幼稚園、保育所等84園からの応募を得て、開催された。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、応募作品の審査と短期大学Webサイトでの優秀作品紹介のみとし、例年実施している五峯祭（大学祭）に合わせた表彰式や作品展示は行わないこととした。

このため、各園からの応募作品数も、1園当たりこれまでの10点から5点までと絞つての募集としたが、最終的に404点の作品が寄せられた。

応募された一つの作品は、クレヨンや絵の具などを使ってダイナミックに表現され、伸び伸びとした個性に溢れ、幼児ならではの世界観や感性の豊かさを感じられるものばかりであった。

10月3日に開催された審査会では、子どもたちの興味関心の思いやユーモアあふれる発想を感じた審査員からは、思わず笑顔がこぼれる光景が見られるなど、子どもたちの無限の可能性と表現する面白さを共感することができた充実した幼児絵画展となった。

校外実習を通して学んだこと  
命預かる責任の重さ実感



健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組  
小熊まなみ

私は1年次の2月に狭山市にあるル・レーブ狭山さくら館の調理現場で2週間の校外実習を体験させて頂きました。

食に関する指導は、「お彼岸」について10分程度の時間をうけ、説明させてい

さく切ったりするなどの細かい気遣いや大人に比べて免疫力が低いことを考慮して衛生管理を徹底すること。作業する際には必ず事前に細かい項目に沿って十分に確認することでアレルギー・事故などを未然に防いでいることなど、子ども達の命を預かっている栄養士の役割の重要性について身をもって学ぶことができました。

今回学んだことを活かし、日々努力をして沢山の人の役に立てるような栄養士になれるよう頑張りたいと思います。

近藤 彩音



## 教育実習（栄養教諭）を通して学んだこと 学校給食の現状を理解

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組

今回の実習で得たものを活かしながら、今後も自分を高めたいという努力を続けて、来年の4月に入社してから常に向心を持ち、国際学院埼玉短期大学で学んできたことを活かして、積極的に取り組んでいきたいと思います。



オンライン決勝の様子はテレビでも紹介された

射撃部

# 決勝戦はオンラインで

2年A組 小西 伶奈

(川越市立大東西中学校)

今年度は、世界的に新型コロナウイルスが流行し、ほとんどの大会が中止になりました。6月から緊急事態宣言が解除され学校が再開し、次の大会に向けて日々練習を重ねました。

8月になるとコロナウイルス対策をとった大会が行われ始め、消毒、検温を徹底し、「全国高等学校スポーツ競技大会」が開催されました。

全国の人が一か所に集まると密になってしまったため、県ごとに試合を行い、各種目上位8名がインター

高校スポーツ大会エアライフル優勝

ネットを使ったオンライン形式で決勝を行いました。これは世界初の試みで日経新聞やフジテレビの「めざましテレビ」、NHKのサンデースポーツにも放送されました。私は、エアピストル種目で優勝しました。

た。オンラインだったため、撃ち終わって優勝したことが分かっていても、いつも練習している場所で行ったので実感がわかず、時間が経つことで日本一になったことに喜ぶことができました。

10月24日には全日本選抜ライフル射撃競技大会が行われ、全国で6位になりました。高校生で1位だったため、12月の「東アジアユース大会」の出場権を獲得しました。

11月3日には新人戦が行われ、ライフル種目は県から男女4名ずつ、ピストル競技は県から男女3名ずつが次の関東選抜大会に出場することが出来ました。本校は7名が出場権を獲得しました。

関東選抜大会では、全員が入賞を目指し、新チームとしての良いスタートがきれるようにチーム一丸となり、私たちの目標である全大会優勝を目指して頑張っていました。

新型コロナウイルスの影響で大会が中止や延期になり、今回オンライン開催を

陸上競技部

# インターハイに向け精進

1年H組 村越 京

(さいたま市立大原中学校)

私は、9月26日に行われた埼玉県新人陸上競技大会において、走幅跳に出場し優勝を果たすことができました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で6月まで部活動が中止となり、練習不足で

ことではありません。その周りにいる時との緊張の違いや、改めて大会は当たり前に行われるものではないというところ、大会で成績を残し喜びを実感することのありがたみを感じることができました。

また、勝つことは簡単ではありません。経験を積んで、相手校の選手が勝つにこだわらず、プレッシャーに負けないメンタルを持ち、これからの挑戦にたいして、日本代表として、メダル獲得を目標に、練習通り集中を切らさず最後まで戦い抜きたいと思っています。

専門種目に対するイメージを持つことができるようになってきました。

そして、6月以降、部活動が再開され、徐々に練習に慣れていき、技術面、体力面を強化することができました。5月の埼玉県大会や6月の関東大会、そして8月のインターハイ等、当初、目標にしていた大会が中止になってしまったので、私にとって今回の県新人大会は、今年度の中で一番目標としてきた大会でした。



目標の県新人大会で

10月24日、群馬県正田藩油スタジアムで行われた関東選抜大会は、関東の各都県上位3名のみが出場することが出来ます。来年の全大会で活躍するために、日々精進していききたいと思っています。

当日は、雨が降りしきる厳しいコンディションでしたが、私は、思うような準備ができず、迎えた競技においても自分の跳躍ができず11位という結果でした。自分の自己記録を出すこともできず悔しい結果となりました。

1年生ということもあり、自分の競技に自信が持てていない部分があると感じました。私は、この経験を生かし、今後の練習で常に自分の力を発揮できるように技術、体力、メンタル、全てにおいて成長していきたいと思います。



マレーシアの中学生と英語や日本語で交流

# マレーシアの学校とオンライン交流会

## コロナ対策で文化の違い実感

高等学校ESD推進室主任 島田 哲弥

教育提携校であるマレーシア王立アラムシャヤ中等学校との学校間での交流活動は本校が継続して行ってきたものである。今年度も中学校3年生が現地を訪れ交流を行う予定であった。しかし、コロナウイルス感染症の世界的な広がりによって直接的な交流は不可能となった。このような状況の中で、本校の「生徒の学びをいかなる状況の中でもとめない」という教育目

標が国際交流においても生かされる機会がアラムシャヤ中等学校とのオンライン交流会である。

最初の交流会は7月28日に実施された。本校からはこの交流会に一貫部在籍する中学生と高校生、生徒会役員、ユネスコ部の生徒などの有志が集まった。アラムシャヤからは日本語を第2言語として学んでいる生徒が参加してくれ、オンライン交流は英語や日本語

を用いての交流となった。初回はコロナウイルス感染症によって学校生活はどう変化したかというテーマで日本・マレーシアの状況や学校生活の変化などをお互いに発表した。

初めてのオンライン交流でなかなか思い通りに進まないところもあったが、日本とマレーシアでコロナを取り巻く環境の変化や取り組み方の違いなどが如実に伝わり異文化交流としては

とても興味深い企画となった。このような交流がきっかけとなって9月に行われた本校のオンライン文化祭にもアラムシャヤ中等学校の生徒が参加してくれ、本校生徒の企画にたいして様々なコメントをいただくことが出来た。

2回目の交流は11月5日に行われ、今後国際学院中学校高等学校とアラムシャヤ中等学校で共同して動画作成を行うことがオンライン投票によって決まった。現在、両校の生徒によって動画作成が鋭意進められているので、どのような作品が出来上がるか楽しみにしている。

中学校DRR研修

# 外郭放水路と動物園で学ぶ

1年I組 大野 望叶

(伊奈町立小針小学校)



11月10日に、グローバルコンバクト加盟校である私たち中学生は、防災減災学習と集団行動の大切さを学ぶため、3学年合同で首都圏外郭放水路と東武動物公園に行きました。

放水路は、洪水を防ぐために建設された世界最大級の地下放水路です。116

の階段を降り、地下放水路を見学し、地域の治水施設としての役割を学びました。特に印象に残ったのは、調圧水槽が高く太い柱が地下神殿のように並んでいて神秘的だったことです。実際に雨水を排水する際に

使用されている場所でした。が、土埃一つなかったので掃除はすべて機械がしていると思ったのですが、手作業で行っている所もあるという話をガイドさんから聞き、驚きました。今回の地下放水路の見学は、防災について私たちにできることは何かを考える良い機会となりました。私は、あらかじめ災害に関する知識を身に付けることがとても重要だと考えました。なぜなら、災害が起こった時、すぐに的確な判断をすることは非常に難しいからです。

今回の校外学習を通して「知識を得ることの大切さ」と「ルールを守る大切さ」を学びました。この校外学習で学んだことをこの場面でも活かせるように意識して生活していきたいと思っています。

き、班別行動をしました。一般の方もいたため、自分勝手な行動をせず、いつも周りの人々への配慮を忘れないように心がけました。事前に回るコースをクラスのみで話し合い、様々なアトラクションを楽しむことができました。特に水上コースター「カワセミ」はスリル満点で、みんなで何度も乗りました。他にも、動物と一緒に写真を撮ったり、友達とお揃いのお土産を買ったりしました。どれもかけがえのない思い出となりました。

クラブ活動報告

クラブ活動報告

### 異文化学習会 5か国の海外出身者を講師に招いて開催



海外の方と交流する際、相手国の文化や歴史あるいは政治や宗教を理解した上で適切に対応できることは、国際人としての必須能力の一つであり、いわゆるポリティカルコレクトネスを意識すべしという世界的な動きになっている。

9月、語学研修施設に高校第2学年の生徒を引率した際、私はこの問題が危急であるように感じられた。すなわち、これまで語学学習はそれなりに行ってきたものの、他方で、国際性を学ぶ機会が欠けていたのではないかと、ということである。

翌月に異文化学習会があったことは、その意味で僥倖といえた。これは海外出身の方々を本校に招き、直にその国についてお話をうかがうことができる行事である。

10月19日、今年度は感染症対策の観点から、直接物に触れることのない講義型中心の授業となったが、ロシア、韓国、モロッコ、イタリア、ロシアという5か国について学ぶ機会を得た。

### コロナ禍でも国際交流は絶えず 生徒は英雄やスポーツ選手に高い関心

講話の中には「ロシアの国旗の赤はスペインからの独立戦争時に流れた血を表す」といったシビリアなエピソードもあった。国際性

### オンライン五峯祭(高校)

### トラブルも臨機応変に対応

第2学年A組 根本 真歌

本年度の文化祭は、新型コロナウイルスの流行によりオンラインでの開催をすることにいたしました。映像やイラスト・文芸などを有志団体や部活動から提出して頂き、当日放送したり、特設サイトに掲載をしたりしました。いつもの文化祭とは違うからこそ見る事ができる作品もありました。

本年度は、オンラインでできること、国内の研修施設でできること、様々な手段を検討して実施されたのが9月28日のTGG語学研修である。

TGG(東京グローバルゲートウェイ)とは、2017年に東京都教育委員会と株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYにより設立された、東京臨海副都心に位置する体験型英語学習施設である。今回は感染症防止の観点から、ラッシュのピークタイムを外した半日のセッションを選んだ。

4技能の中でもとりわけ感染リスクの高いスピーキングという行為について、どのように教育プログラムに組み込むかは、コロナ禍において大きな悩みの種となっている。TGGは、入

とは、こういったエピソードが体に浸透していくことで、徐々に育まれていくものかもしれない。

余談になるが、控室での雑談で、講師の方々が「コロナ禍で母国に帰ることができなくて困っている」とおっしゃっていた。国境を超える渡航が制限される中で、国籍のある母国に帰ることはできても、また日本に戻ってこれるかどうかはわからないのである。

今回のパンデミックにより、世界はこのような厳しい状況下にあるが、国際交流そのものが途絶えるわけではない。本校が取り組む国際理解教育もアップデートする必要があるように感じられた。



私は11月9日に、校外研修として栃木県黒羽山にある大雄寺と大谷資料館を訪れました。そこで学んだことは、大雄寺と大谷資料館の歴史のみならず今後の学校生活にいかすことのできるものばかりでした。

私が最初に訪れたのは、「曹洞宗黒羽山黒羽寺」です。大雄寺は、1404年に創建され、国指定重要文化財に指定されています。大雄寺の魅力の1つとして、カヤ葺き屋根があげられます。カヤ葺き屋根は、現在新しく作ることは禁止されています。それは、カヤが植物なので燃えやすいからです。そのため、カヤ葺き屋根は、大雄寺ならではのものです。本堂の中では、住職の方の話を聞きながら、そこでは最初に「座禅」というものを学びました。手と手を合わせて一礼する。それは、相手に感謝と尊敬の意を表します。日常でも「いただきます」や「ごちそうさま」をするときに座禅をします。毎日こ

### 校外研修(高校1年生) 栃木の大雄寺で座禅を体験

1年H組 小川幸輝



飯を食べられていたこと、充実した学校生活を送っていること、校外研修に参加できていることはたくさんの方々のおかげであること、改めて感じました。

そして次に訪れたのは、「大谷資料館」です。探掘が本格的に行われたのは、江戸時代の中ごろで、昭和34年の機械化までは、すべて手掘りで行われていました。その広さは、約2万平方メートルで最深部は地下60メートルにも及びます。その広い空間は第二次世界大戦中に地下倉庫や軍工事場として利用されました。展示品を見ると、当時の手掘りの苦勞の様子がよくわかります。

そして昭和34年の機械化により作業効率は5倍になり、産業革命をもたらします。壁に付いた縦の溝は「丸鋸式平掘機」で切り出した、機械化初期の掘り出し。その模様は広く広がりが幻想的な景色です。1980年代に入ると、その幻想的な世界観をいかし、コンサート会場やドラマの撮影が数多くされています。あの「翔んで埼玉」の撮影もここで行われました。

今回の校外研修では、大雄寺と大谷資料館の歴史にも触れることができ、その他にもたくさんの方が吸収できたので、貴重な経験をさせていただいたと感じています。まだ行けるかは未定ですが、修学旅行もありますし、そのための団体行動の練習にもなるとおもいます。

これから高校生活は長いですが、より充実した学校生活を送れるように今回の校外研修をいかしていきたいと思えます。

### TGG語学研修 コロナ感染予防を徹底

### 海外生活イメージのセット内で学習

高等学校第22期生は、入学当初より語学学習について「高校時代に学んだ教科として終えるのではなく一生活用する。英語の苦手な日本人が国際社会で生きていく上では、そのようなアティテュードが不可欠であるからである。

語学学習については、カナダでの海外研修のように、実際に現地に赴いて実践経験を積むことが最も近道となるだろう。それが不可能となったコロナ禍にあって



も、オンラインでできること、国内の研修施設でできること、様々な手段を検討して実施されたのが9月28日のTGG語学研修である。

TGG(東京グローバルゲートウェイ)とは、2017年に東京都教育委員会と株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYにより設立された、東京臨海副都心に位置する体験型英語学習施設である。今回は感染症防止の観点から、ラッシュのピークタイムを外した半日のセッションを選んだ。

4技能の中でもとりわけ感染リスクの高いスピーキングという行為について、どのように教育プログラムに組み込むかは、コロナ禍において大きな悩みの種となっている。TGGは、入

館時の手指消毒徹底やスタッフ全員のフェイスシールド着用など、その点で最大の配慮がなされていることが、利用を決める一因となった。

研修は、海外生活をイメージして作られたセット内での会話学習と、英語を用いてプログラミングやマーケティングなどを学ぶ知識技能学習に分かれている。生徒たちは新鮮味を覚えず、強い刺激とともに英語を学んだことだろう。

語学学習は、こうした刺激を時折浴びつつも、日々の学習を積み重ねることが重要である。学年としては、こうした行事と並行して日々の学習習慣を確立させることをねらい、翌日より、英単語テストを再開した。これらの仕掛けがうまく連動することを願っている。



残る文化祭になったと思いきや、来年はコロナウイルスが収束して全校生徒が楽しめる文化祭ができることを祈っています。

### オンライン五峯祭・調理

### 4か国の料理を動画で紹介

3年G組 三枝 美成  
3年G組 山之内水輝

今年度の五峯祭(文化祭)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの実施となりました。

私たち食物調理コース生は、昨年度まで模擬店などの料理提供を行っていましたが、初めてのオンラインに不安や戸惑いがありました。ですが、普段の調理実習とは違う異文化料理講習会で学んできた料理を紹介することにしました。この講習会は、2010年ユネスコ



4か国の中で実際に講習を受けたのはモンゴル料理だけだったので、その他の国の料理は先生からレシピをいただき、アドバイスを受けました。

ここでは私たちが学んだモンゴル料理について述べますが、ホーシヨール(大きな揚げ餃子)とホニーマハティノゴータイシユル(羊肉と野菜のスープ)などで、初めて使用した羊肉

調理師を目指す私たちに、今回の経験は自らの視野を広げるまたとない機会となり、とても勉強になりました。残り少なくなりましたが、高校生活に生かしたいと考えています。

# 「コロナ禍」で中止も出来る範囲で楽しむ!

思い出として残る行事に

## 学修成果発表に達成感

五峯祭実行委員長 林 菜乃花

五峯祭を開催するにあたり、新型コロナウイルスの中で私たちが何ができるのかを考え、限られた範囲の中で楽しむことができるように準備してきました。各クラス、研究班でSDGs17目標の一つを掲げ、それを基に幼児保育学科は一つひとつペーパーアートやパネルシアターなどの作品を作りました。また、健康栄養学科はケーキやクッキー

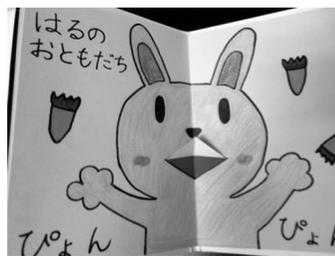


やケーキは健康栄養学科の学生に配りました。日頃の学修成果をそれぞれが発表し、達成感を味わうことができ、楽しい思い出として心に残る行事となりました。

## 乳児向けに仕掛け絵本製作

幼児保育学科2年A組 松本 りか

私は、五峯祭の展示作品で仕掛け絵本を作りました。



仕掛け絵本

子どもの頃から絵本が好きで、その中でも特に仕掛け絵本が好きだったのので、自分でも作ってみようと思い選びました。「動物の鳴き声」を題材にして、絵本のページを動かすことで動物が鳴いてみえるようにしました。登場する動物の絵や文字にこだわったので、完成するまで3日程かかりました。

乳児向けに仕掛け絵本を作ったのですが、動物の絵や文字を濃くはっきり描いて色を塗り、見やすさを重視したところ、怪我をする恐れがあるので、絵本の角を丸くしたところが工夫した点です。

増やしてシルエットクイズ形式にしたり、違う種類の仕掛けを取り入れたりと、子どもがもつ楽しむことができるのではないかと感じました。

## テーマ別にエプロン製作

幼児保育学科1年B組 山本 綾乃  
幼児保育学科1年C組 金沢 菜桜



クラスごとに展示

クラスごとにテーマを決め、クラスごとに元となるエプロンを選び、将来保育者になった時に使える様に1人1枚のエプロンを製作しました。A組は、「駄菓子」をテーマに、B組は、「動物」をテーマに、C組は、「おきなな」をテーマにして42の動物が宝箱を引っぱり、みんなのエプロンで一つの絵になるように制作しました。

「動物」をテーマに、C組は「おきなな」をテーマにして42の動物が宝箱を引っぱり、みんなのエプロンで一つの絵になるように制作しました。そして、製作したエプロンは図書館3階にクラスごとに展示しました。

## 基礎から最新知見まで研究

食品学ゼミ 基礎から最新知見まで研究

本年度の食品学ゼミは、①食物アレルギー②人工甘味料の二つのテーマについて、論文検索を中心に研究を行いました。

「動物」をテーマに、C組は「おきなな」をテーマにして42の動物が宝箱を引っぱり、みんなのエプロンで一つの絵になるように制作しました。そして、製作したエプロンは図書館3階にクラスごとに展示しました。今年度は五峯祭が中止となり、本来のポスター発表はできませんでしたが、2年生と1年生のゼミ生を集めて、2年生を中心にゼミ内で発表を行いました。自分の言葉でアウトプットすることで、理解が不十分であったことや、調べたものなどが明確になったと思えます。これから論文の作成は、佳境を迎えますが、自分で調べ、理解し、言葉にする技術をさらに磨き、納得のいく卒業研究に仕上げたいと思います。

## 料理・食品展示に工夫

### 食品ロス削減に取り組む

健康栄養学科調理製菓専攻では、毎年来場者の方々から高評価をいただいていた模範店での料理提供を今年度は縮小し、調理製菓専攻1、2年生がこれまでに学修した専門料理別に料理展示や食品展示、焼き菓子販売をテーマとして事前準備を行いました。



焼き菓子は、ガトーショコラとクッキーを販売する予定でした。2年生は昨年度の経験を活かし、準備を進めてきましたが、残念ながら今年度は提供に繋げることができませんでした。

地のおブジェを作成しました。食品展示では、食品ロスを出さず発表できるようにアイデアを出し合った結果、小麦粉を使用した加工品の展示を行うことに決めました。乾燥させてパンを作り、乾燥させて展示を行いました。終了後はバスタに茹でて食べることができ、パンは更に乾燥させてパン粉に加工して今後の調理実習で使用できるように工夫し、食品を廃棄することなく終わることができました。

今年度は例年とは違う活動となり、2年生から1年生へ昨年度の経験を引継ぐことができませんでした。今後、2年生には1年生への引継ぎを行う機会を設け、次年度の五峯祭活動へ繋げていく予定です。

## 「西洋料理テーブルマナー」研修実施

身だしなみから食事作法まで



3密を回避した会場

10月19日、26日、11月2日、12月7日の4日間、パレスホテル大宮を会場に「キャリア教育I」の授業の一環で、社会人にとって

必要なテーブルマナーを身に付けるための「西洋料理テーブルマナー」研修を実施した。例年であれば同研修は、

9月に両学科の1年生全員を対象に一度に開催していたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3密を避け、人数を制限した会場で、健康栄養学科は2回、幼児保育学科は3回に分けて実施した。

また、長テーブルとなることを、正方形に近いテーブルとし、全員が正面を向く、スクール形式でのテーブル配置とした。

オードブルから始まったメニューは、「ルバーブとフォアグラのテリーヌ」「グレット野菜と共に」、「季節の焼き合せ色々 青実」

本講座の講師を務めたパレスホテル大宮の栗原氏からは、「マナーは自分だけのためにあるのではなく、一緒にいる人達と楽しさを

分ち合うためにある。また、相手に美しく見せるためのものもある」とこと。さのポワレ、フォアグラ添えの野菜と共に、「お米のプディング」、「パン」、「コーヒ」の全8品で、2品目の者は、通常スープを提供するところを、今回は日本料理の作法を学ぶ機会とすべく、煮物碗に替えて提供した。

続いて、テーブルマナーの基本である、身だしなみや着席の仕方、ナプキンの使い方、食事中の作法などについてわかりやすい説明があった。

## 通信制課程球技大会

### 「ボッチャ」に挑戦

ルールはシンプルも奥深い 国際学院高等学校通信制課程 1年1組 松井 希実



今年度の球技大会の競技は、ボッチャという競技でした。ボッチャとは、体に障がいのある人のために作られたスポーツですが、誰でも一緒に楽しくプレイすることが出来ます。

私がこのゲームを面白いと思ったところは、カーリングと違って目標となるジャックボールの位置を変えることができることです。これによって様々な作戦を立てることができたり、一投一投がとても重要になって面白く思いました。

球技大会では、2人か3人のチームで競技しました。私は2年生の先輩と2人でチームを組みました。ボールを投げる時に、私は相手とジャックボールの間にボールを投げることを特に意識しました。細かくコントロールすることは難しかったですが、大きく投

げるとも楽しかったです。今年度の球技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とは異なり日帰りの県内研修でした。近場の日帰りに少し残念な気持ちと、少しでも友達と一緒に野外活動ができる喜びを胸に出発しました。

## コロナ禍でも楽しく交流

国際学院高等学校通信制課程 3年1組 野中 力



今年度の野外活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とは異なり日帰りの県内研修でした。近場の日帰りに少し残念な気持ちと、少しでも友達と一緒に野外活動ができる喜びを胸に出発しました。

今年度の野外活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とは異なり日帰りの県内研修でした。近場の日帰りに少し残念な気持ちと、少しでも友達と一緒に野外活動ができる喜びを胸に出発しました。今回の研修では、埼玉県小川町方面に行き、3つの体験をしました。1つ目は、伝統工芸会館で、紙すきの歴史や展示品

学年を超えて楽しく交流し、コロナ禍の中でも充実した1日を過ごすことができましたことに心から感謝しています。

# おもちゃインストラクター資格講座開催



体験型講座の様子

## 幼児保育学科65名が受講

### 全6時間の体験型カリキュラム

### 修了者には「認定証」授与

9月16日に「おもちゃインストラクター資格講座」を国際学院埼玉短期大学を会場に開催し、幼児保育学科の学生65名が受講した。

この講座は、認定NPO法人芸術と遊び創造協会が主催するもので、「遊ぶ力」と「つくる力」、「指導する力」の三つの力により、保育者等の遊びに関する実践力を高めようとするもので、4つのワークシヨップと4つのレクチャーで構成される全6時間の体験型カリキュラムとなっている。

当日は、2名の同協会のベテラン講師が来学し、熱心に学生指導に当たった。身近な素材で簡単にできるおもちゃや遊びを知り、一つの素材から様々な遊び

た。また、「新聞紙をとこ」とん楽しむ」として、新聞紙一枚を折ったり、ちぎったり、破ったり、丸めるなどして、「新聞紙ジャンケン」、「新聞紙すもう」、「新聞紙ボール」、紙皿をブラスとして「フリスビー」や「皿回し」などを作り、これらを用いた遊び方を体験した。

この講座を体験した学生たちは、身近な素材で作ることができるおもちゃの面白さや、でき上ったおもちゃで遊びながら、人と交流しながら褒めあったり、教えあったり、共感したりする

この楽しさを感じることもできた。修了した学生には「おもちゃインストラクター認定証」が授与されるが、学生たちからは、口々に「子ども達と一緒にやってみたい」、さらに上位資格である「おもちゃコンサルタントの資格も得たい」という声も聞かれ、保育者への道を

## 学内代替実習を実施

### コロナ禍で専門家を招き知見を学ぶ

本学は、施設保育士としての知見を学ぶ保育実習Ⅰ（施設）を、10月～12月の期間で、実習内容の一部を学内で実施することとした。

この取組みは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、児童福祉施設等が基礎疾患を有する利用者の安全確保を目的に、実習生の受け入れを縮小・中止せざるを得ない状況を受けたものである。

保育士が活躍する現場は、家庭の事情や障害があるために特別な配慮や支援

### 施設業務の基本と職務の

### 実際に係る実習を展開

### 実技では「ボッチャ」を体験

そのため、本学においては実習の全てを中止して学内での講義・演習に切り替えるのではなく、依頼施設の負担を最小限に留めることを念頭に置きつつ、現場でなければ学べない内容については各施設での実地指導を依頼し、各施設の外で取り組むことができる内容については、事前に学内で実習を行うこととした。

保育実習Ⅰ（施設）として計画した10日間のうち、学内では日曜日を中心に5日間において、施設の子どもや障害児・者への支援に関する専門家と本学教員が

連携して実施した。講義や実技の内容は、シラバスにおける学修内容を基に、施設保育士の職責や倫理、健康や安全管理、医療型障害児入所施設を中心に施設



視覚障害者同行援護を学ぶ

「ボッチャ」の体験を通じて身近にあるもので遊びを考える学びをはじめ、視覚障害児・者の同行援護、肢体不自由児・者の身体介護を行い、施設保育士の職務について実感をもって学んだ。

へ長期在籍する子どもへの指導・支援の実践、施設に暮らす子どもへの余暇活動を促進するための工夫、障害児・者の介護と同行援護について取り上げた。講師は、筑波大学と附属学校、国士館大学より招いた。

実技では、2021年に延期した東京オリンピック・パラリンピック正式種目

### 短期大学学友会活動報告

## コロナ禍を乗り越えて

### 次年度学友会に期待

学友会会長 幼児保育学科2年C組 平井 孝樹

学友会は、本学の教育理念に則り、会員相互の協力によって、本学の発展と会員の豊かな学生生活の実現

並びに会員相互の資質向上と親睦を図ることを目的に設置されています。

そして私たち学友会役員は学生がより良い学生生活を送れるように「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の



7月には「短期大学生のためのキャリア形成講座」への参加は、中止を余儀なくされました。11月の五峯祭についても日程や内容を変更し、お菓子作りや作品の展示のみでの実施となりました。

今後の学友会活動の計画としては、実施することができなかった体育大会に替

## オンライン選挙を開催

### 五峯祭、国際交流も同様に実施

高等学校・中学校生徒会活動報告 高校・生徒会長 2年K組 月岡 彩花

私たち生徒会本部役員は前期の生徒会活動において次のような活動に取り組みました。

5月27日にオンライン選挙が行われました。今回は会長候補1名、副会長候補4名、会計候補1名の合計6名が立候補し、二密を避けるためMicrosoft Teams

7月には前期生徒会発足の最初の活動となる「アイシティブイックプロジェクト」を開始しました。この活動は使い捨てコンタクトレンズの空きケースをリサイクル

人になってほしい」という先生方の思いが一つ実現された形となりました。また、この活動を、朝日新聞、テレビ埼玉、埼玉新聞の方々



また、9月12日に本校初のアライアムシヤア中等学校とのオンライン会議を行いました。今回は両校コラボレーション企画の選定の

の生徒たちや先生方に参加していただき、文化祭前夜から約3万個のドミノを立てました。「コロナウイルス収束」というテーマを掲げ、この願いを少しでも多くの方に伝えたいという

ため2つの案を出し、それぞれの案の魅力をプレゼンを通じて伝え合いました。完成した際には、たくさんの方に作品を見ていただけたいと思います。以上が前期生徒会活動になります。

卒業生近況報告 短期大学 平成23年度卒業

新たな環境で心機一転

社会福祉法人誠心会あおぞら保育園

鈴木 菜穂

私は現在、あおぞら保育園(さいたま市中央区)で...



あおぞら保育園は、学生時代の校外実習先で、保育園での就職を希望していた...

計画、準備し、実行していく過程は、学生時代に経験し学んだ事の一つで...

勇気のいる決断でしたが、場所を変えることで、同じことでも様々なやり方や...

私があおぞら保育園で一番魅力に感じている部分は、園児に対して行う食育活動で、子どもたちの前でお話しをしたり、クッキングをしますが、子どもたちはとても楽しんでくれていて...

食育活動の担当になると、事前の準備が重要で、一緒に働く先輩方に助けられながら、行事を計画して...

いたり、共有することが出来る。計画、準備し、実行していく過程は、学生時代に経験し学んだ事の一つで...

私には、国際学院で素敵な卒業生時代があったこと、そして、今になってとても役に立っています。学生の頃は、課題をこなすことに追われていたけれど、就職して、ふとした時に、頑張ってきたことが身に付いているんだと感じています。

学生時代の友人とは、卒業してからも定期的に集まっています。学生時代はたったの2年間でしたが、一生付き合える大切な仲間と出会えたことを、とても嬉しく思います。短大は、毎日がとても忙しい印象ですが、同じ目標のある仲間と一緒に学べることも、良い刺激になるとともに、就職後も仕事の悩みを相談...

卒業生近況報告 高等学校 平成28年度卒業

コロナ禍での学生生活

学習院大学文学部教育学科4年

長岡 葵



2017年の卒業生です。コロナ禍の教育実習についてお伝えします。私は小学校の教員免許を取得するため、母校に4週間教育実習に行きました。

私の母校は全国でもトップクラスのマンモス校で、全校児童数は1300人を超えます。どの学年に配属されるか、どんなクラスかワクワクと緊張と少しの不安を抱えながら実習を楽しみました。

安を抱えながら実習を楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、当初の予定では5月11日開始だった実習は9月14日から変更になりました。

実習が始まる前、何度も小学校と電話でやり取りをし、教務主任の先生からコロナ禍での実習の注意点を聞き、心を得ることができました。その中で、子どもたちの学校生活が見えてきました。体育の授業以外はマスク着用が必須であったり、給食は全員前を向いて...

静かに食べなければならなかったり、子どもたちが自主的にアルコール消毒をこまめにしていたりと、守らなければならぬルールだけでなく、周囲に気を配った行動が増えました。子どもたちは1学期の間はほとんど登校できず、家庭で過ごしていました。学校が再開しても人数が多いため、午前と午後で半分に分かれ入れ替わりで授業を行っていました。そのため、全員が一つの教室に揃うのは2学期になってからでした。

ベストブック

井上靖・著

「天平の薨」

新潮社



井上靖の「天平の薨」は、高僧鑑真の来朝という、大きな事跡の裏で運命を躍らせた五人の天平留学僧の、それぞれの壮絶な人生を描いた作品である。ときに、普照をはじめとする遣唐使たちの、その心情に切迫しながら、常時は、彼らが直面...

次遣唐船では、阿倍仲麻呂、吉備真備、玄昉ら、日本史の教科書で紹介されるほどの高名な学者及び僧が入唐しており、本作の中でも、都洛陽にて彼らと言葉を共にする場面が描かれている。一方で、第九次の面々には、後代にその名を高くとどめた者はいない。しかし...

井上靖が描く二人からは、師弟愛が滲み出る。使命に人生を賭した互いの畏敬、そして師と弟子のように人生を共にする覚悟があつてこそ、この偉業は成しえたのだ、と言わなければならぬ。そして、悠久な歴史の中で流されて消えていく塵芥の如き人間の、過程的役割やその機微にこそある、偉人並みの価値を発掘して、我々読者の現前に差し出すのである。そこには、いつの時代にも変わらない、心の琴線に触れる浪漫が確かに存在するのである。

鑑真和上来朝の困難とそれを支える若き5人の天平留学僧の苦闘の物語

書評の仕事に依頼されてからの今日までの日々は楽しかった。自分の好きなものを人に紹介できる機会があるというのは、それが何であれ心が躍るものだ。私も多分に漏れず、拙宅にある狭小の書庫にて、何やらひとりよがりやとしながら図書選定の時を過ごした。掌にとる古書はどれも思い入れがあり、古びた紙の饅太においの中から青年期の心の声が漏れてくる。十四歳のころ、芥川龍之介や太宰治に傾倒した。十代後半の生意気盛りには、大江健三郎

中学校高等学校一貫部 教頭 田中 直樹

使命に人生賭した師弟を描く

歴史に消えゆく名もなき者の偉業

で、誇りがあったのだ。彼らの本を携えているだけで、なんだか自分が、普段の自分より大人びて格好良く思えた。そんなことを思い出した。恥ずかしいなあ。よし、彼らの作品を評するのは止そう。余計なことを思い出しすぎて筆が一向に進

に些かそぐわなからう。私が憧れるのは、偉人が偉業をなす傍らで、影となりそれを支える人物である。そう、鑑真和上が、幾度もその困難を乗り越え、那由多の時を経て来朝し、戒律を定めるに至るまで、それに己の命を懸けた遣唐使普照は、正

する、人の意思の波のなかで足掻き、己との対峙のなかで悩み苦しむ様子が、温みと畏敬の念を内包した鳥瞰点から描かれる、名作である。普照たちは、天平五年(七三三)の第九次遣唐船にて入唐している。養老元年(七一七)の第八



ながら、大安寺の秀僧普照と、のちに道平はで病に倒れる興福寺の栄叡は、己らに託された使命、すなわち日本に戒律を施行するため伝戒の師を請ずる、という史上の快挙は成し遂げたのである。唐立の日の様子はこう描かれている。――早

暁の冷たい江上の風に顔を向けたまま、普照は涙を頬に伝わるに任せた。「照は泣いているのか」と鑑真は訊いた。「泣いてはおりませぬ」普照は答えた。――

教育振興資金(寄付金)のお願い

オンライン授業の環境整備

国際学院は建学の精神及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有意な人材を輩出しております。特に中学校高等学校のユニスコスクール加盟をはじめ、国連グローバル・コンパクトに署名し、GCNJの会員として、GCG及びSDGsの推進に取り組む等、国際社会の中で尊敬され、活躍できる人材の養成に邁進しております。こうした場合、より充実した教育研究、社会貢献活動を実施するためには、施設設備や各種奨学金制度の充実等、教育研究環境の整備

の先生方にアシスタントティーチャーのお話をいただいたため、11月からまた母校で活動しています。アシスタントティーチャーは実習生とは異なり、様々な学年、クラスの補助に入るため、多くの子ども、先生とかわり、学校のことをより理解できればと考えています。私は大学でバレーボールに所属していましたが、コロナ禍で大会や練習がすべて中止になり、3月からボールに触れない、部員に会えない、引退試合がないまま引退となりました。高校生、短大生の皆さんも部活動や行事等が例年通り開催されず悔しい思いをしているかと思いますが、できないことを考え、悔いがないよう頑張りたいと思っています。3年生は残り少ない高校生活を楽しんでください。応援しています。

ファイカメラ等の設置を実施しています。また、短期大学においても、オンライン授業をはじめとした教育ICT環境の整備、図書館の配架・レファレンスの充実を図るほか、新たに卒業研究発表会支援を実施しています。特に本年度は、中学校高等学校、短期大学共に新型コロナウイルス感染症対応の資金等に充当しております。なお、寄付金については、税制上の優遇措置を所定の手続きをとることににより受け取ることができます。詳細は、短期大学ホームページ(https://seiget.ac.jp/)に「寄付のお願い」として掲載しておりますので参照下さい。お問合せは、各校の寄付金担当まで。